

# 奥会津だより

創刊  
**100**号  
2017 初秋

「100号に至る道の途上で、  
多くの方々、たくさんの方が  
頁が生まれ続けた  
『ほげむ』という意味も持つ『百』を携え  
奥会津の懐のせらに深く」



写真：菅 敬浩

奥会津各地からのお土産品を100名の方にお贈りします。  
方言クイズでお申込みください。

# 曾祖父母の、昔の暮らしと今の違い

柳津町立柳津中学校 一年 芳賀 優太

この写真は、今から約四十二年前に撮影したものです。母方の曾祖父母(写真右端と左端)が、春の昼時に訪問してきた孫に喜び、畑作業の手を止めて写真を撮ったものです。現在、曾祖父母は他界しています。この写真について、母方の祖父より聞きました。

まず、北海道で小魚や数の子を原料として作られた肥料を購入して、使っていた。祖父が小さい頃は、おやつが無かったため、こっそりこの肥料をおやつ代わりに食べたことも話してくれました。

曾祖父母は、専業農家で生活しており曾祖父母とその長男家族の十人で暮らしていました。写真右手前にある白い袋の山は、魚カスで作られた肥料です。昔は、今のように肥料が簡単に手に入

田畑を耕す時は、牛や馬の力や鋤で耕しました。今のようにトラクターも無いため、作業時間も長く人手も多く必要だったようです。当時は畑の肥料として、たい肥と人ぶんを混ぜたものも使用していたようです。今は人ぶんを使用することも無いし、使用したら悪臭で大問題になります。ガス、TV、冷蔵庫も無かったため、ガスの代わりに薪、TVの代わりにラジオを楽しみに、冷蔵庫が無いので、野菜等も塩つけにして保存していたと話してくれました。料理やお風呂は薪を使用して、冬は料理やお風呂で使った薪の残りで暖をとっていました。灯は電気とランプを使い分けしながら、生活していたそうです。



今の時代は、TVだけでなくゲームやインターネットなど、恵まれ過ぎた生活環境になっています。今回、祖父からの話を聞いて、生活するために必要なものは、本当はそんなに多くなく、一つ一つの物を大切に生活することが大事だと思いました。

## 取材ノート

曾祖父：笠間 義隆さん

(昭和十八年生 七十四歳)

曾孫：芳賀 優太さん

(平成十六年生 十三歳)

(柳津中二年)

Q: この写真についてですが、

義隆さん: 右から父、兄嫁、せがれで、今四十六(歳)かな、そして母です。

優太君: じいちゃんから、農家をやっていたという話を聞きました。

Q: 右端の白い袋が肥料。

義隆さん: 昔肥料が無かったでしょう、北海道では魚介類が獲れて、そのカスを肥料として使っていたんです。南京袋かカマスで、十〜二十袋だったかなあ。



Q: 大家族の何か思い出は?

義隆さん: なんだって、飯は大量に炊いていたね。夕方、また炊く時に、なべに残っているコゲに生の味噌つけて、おやつみたいにして食べていた。握り飯だな。

Q: ご飯は何で炊いていましたか?

義隆さん: 薪で炊いて、その後は又力釜だった。

Q: 牛や馬で耕していた。

義隆さん: 馬耕なあ、最初三本グワでやって、その後四本グワでやるの。細かくするため。今の田んぼと違って、藁でかくれるくらいの小さい田んぼもありましたから。馬の鼻取りをやったんだけど、ぬかるので隅から隅まで動けなくて怒られてさあ。夕方になるとアブがきて大変だった。

Q: ガスやテレビも無かった時代。

義隆さん: ラジオを聞くのが楽しみだった。「笛吹き童子」とかね。姉が「平凡」とか「明星」の付録の「歌本」を楽しみにしていたなあ。

Q: ランプのホヤ磨きもさせられたなあ毎日。子どもの手じゃないと出来な

Q: 優太君、じい

ちゃんから話を聞いてどうでしたか?

優太君: 昔はゲームも無かったけれど、新聞を読んだり、本をたくさん読んでいた。

Q: お孫さんや今の子ども達の生活を見てどのように思いますか?

義隆さん: 幸せだなあ、ぜいたくだなあ、と思います。昔は、働く、食べる、寝る、しかなかったですよ。

優太君: この写真が本の表紙の写真になったということを話したら、ばあちゃんが「すごいやー!」って大喜びでした。

写真・文責: 菅 敬浩

## 奥会津の植物

コオニユリ (小鬼百合)

写真・文: 新国 勇



オニユリは花付きがよく大きいので庭に栽培される。それより小ぶりなコオニユリは、開けた山野に点々と花を咲かせる。明るい草地を好むが、草地が放置され森林化しているいま、出会う機会は減った。

写真・文責: 菅 敬浩

## 野山で遊ぶ

〈クルミでこま独楽回し〉

胡桃は二百十日が過ぎると実が入るといわれる。硬い実を尖った頭を軸にして独楽に見立て、ペーコマのように回して遊ぶ。ペーコマよりはるかに難しいが、床やコンクリートが土俵となる。



**鬼屋さん**  
「傷んだ建物ばつかし鬼くわけだから、現場現場で工夫するしかねえ。気魂仕事だな。生涯努力だ」

**大工さん**  
「大工になって五十年近くになるな。現場始まつと、うれしくって寝てらんない」

何度もくじけては磨き上げられた技術。狂いのない一挙手一投足に幾多の苦勞が詰まっている。

〈大工さんと鬼屋さん〉

## 百折千磨

ひやくせつせんま



## 奥会津の食材と料理

ふるさと百味

ハレの日に膳を賑わすたくさんの郷土料理には、食すまでにたくさんの手がかけられる。身欠きニシンの山椒漬、舞茸の天ぷら、切干大根のなます、棒タラの煮付け、切り昆布の炒め物、ナスの漬物、ゼンマイの煮物。日なたの匂いがする懐かしくあたたかい味の口取り肴。



## 奥会津の生き物

モズ(百舌)

写真・文  
新国 勇

かぎ状に曲がったくちばしで獲物を襲う小型の猛禽。百舌と書いてモズと読ませるのは、ほかの鳥の声をまねるから。ホオジロのようなさえずりをする鳥がいるので探してみたら、モズだったりする。ひょっとすると、近くなればりをもつホオジロを、おびき寄せて食べようとしているのかも。そうだとすれば、かなりの頭脳プレーだ。



## 暮らしの道具

写真・文  
竹島善一

### 八百万の神々に見守られて

沼沢湖から野尻川へと九十九折の坂を下ってゆくと、道端に双体道祖神が鎮座している。数基の石柱の根本には、男の性器を象徴する多数の自然石が奉納されている。白を模して凹ませた箇所はこの石を置く、願いの趣旨は子孫繁栄そのものである。

谷へ向かった田は、この石群を扇の要として末広がりに半円形に作られている。苗は同心円を描くように注意深く植えられている。

生と性と聖。人の営みが凝縮した一画だ。

(平成十五年五月 金山町小栗山)

# Q方言クイズ

クイズに答えて奥会津の地場産品を貰おう!

問題：次の方言の意味は何でしょう？

「ぬかる」

ヒント：P2、「聞き書き百選」をご参照下さい。

正解者の中から抽選で100名様に、奥会津各地からのお土産品をプレゼントいたします。

●応募方法：官製ハガキに奥会津だよりの感想、住所、氏名、電話番号を明記の上、答えをお書きください。

●あて先：〒969-7511

福島県大沼郡三島町大字宮下字中乙979  
奥会津書房 宛

●応募締切：2017年10月15日消印有効

※当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。※クイズの答えは次号101号で発表いたします。



プレゼントの一部

## ◎99号「カンジャ」の答え：鍛冶屋

たくさんのご応募ありがとうございました!

# 読者コーナー



●表紙の高灯籠は、当地（栃木県矢板市）でも初盆を迎えた家によっています。当地ではナガラ材に故人の年齢分をワラ縄でイボ結びにして柱に巻きつけて建てます。（栃木県矢板市：H.Tさん）

●ここ10年余り会津の旅のため道の駅に立ち寄り、パンフレットやチラシを手にしたり買い物を楽しんでいますが、この「奥会津だよりの」は他と群を抜いて秀でています。紙質、版形、つや消し写真、レイアウト、説明文の巧さ。（山形市：S.Mさん）

●田の草取りに使うコロガシが「ガラ、ガラ、ガラッ」、箕をつけたときの「ザワッ、ザワッ」、農機具を使う音と共に、50余年前の昔がよみがえります。（我孫子市：N.Aさん）

●磐越道のサービスエリアで入手しました。何種類ものパンフレット等がありますが、一番先に手が伸びます。紙の質、人の心を落ち着かせる写真と文章の構成になっていると感じるのかもしれない。（会津若松市：K.Yさん）

●ズッキーニの漬物に興味を持ちました。コノハズクや朴の葉のお面の写真と記事など、奥会津の自然は美しいなと思いました。（仙台市：I.Cさま）

## 奥会津だよりの定期購読者募集中

ご希望の方は事務局まで発送先(ご住所・お名前)をご連絡ください。

問い合わせ先：只見川電源流域振興協議会事務局

TEL.0241-48-5525 FAX.0241-48-5575

E-mail: webmaster@okuaiizu.net

## 奥会津振興センターからのお知らせ

# ～山里の恵みを訪ねて～ 歳時記の郷 奥会津展

□期間 10月3日(火)～10月8日(日)

※初日は10:30～18:00、2日目以降10:00～18:00、最終日16:00まで

□会場 東北電力グリーンプラザ アクアホール

会場では、奥会津自慢の一品を販売する物産展の他、手仕事の体験にプレゼント抽選会も開催します。また、鉄道風景画家の松本忠氏の作品展も同時開催します。

入場無料!!



## 奥会津イベント情報

10月～11月

期日	イベント名	町村名	場所	問合せ
10月5日(木)	第17回福島新そばを食べるコンペ	檜枝岐村	福島民報コース	尾瀬檜枝岐温泉観光協会 ☎0241-75-2432
10月7日(土)	第6回会津やないづ赤べこまつり	柳津町	柳津町寺家町地内	柳津町地域振興課観光商工班 ☎0241-42-2114
	第3回南郷うた＊たねフェス	南郷地域	会津高原南郷スキー場	南会津町観光物産協会南郷観光センター ☎0241-64-5811
10月8日(日)	やないづ門前町歩行者天国「もん☆てん」	柳津町	柳津町寺家町地内	柳津町地域振興課観光商工班 ☎0241-42-2114
10月14日(土)	大博多山秋の山開き	伊南地域	奥会津博物館伊南館前受付	南会津町観光物産協会伊南観光センター ☎0241-64-5711
10月14日(土)～15日(日)	第13回会津の編み組工芸品展	三島町	三島町交流センター山びこ	三島町生活工芸館 ☎0241-48-5502
	第7回ものづくり再光		三島町生活工芸館	
10月15日(日)	ぶな平の紅葉満喫ツアー	檜枝岐村	村内	尾瀬檜枝岐温泉観光協会 ☎0241-75-2432
	伊南川あゆまつり～秋の収穫祭	伊南地域	古町農村公園	南会津町観光物産協会伊南観光センター ☎0241-64-5711
	たていわ裁ちそばキャンペーン	館岩地域	館岩地域	南会津町観光物産協会館岩観光センター ☎0241-64-5611
ゴーマン杯南会津町ふるさと健康マラソン大会	館岩地域	館岩グラウンド		
10月17日(火)～18日(水)	ぶな平の紅葉満喫ツアー	檜枝岐村	村内	尾瀬檜枝岐温泉観光協会 ☎0241-75-2432
10月21日(土)	南郷新そばまつり	南郷地域	会津高原南郷スキー場	南会津町観光物産協会南郷観光センター ☎0241-64-5811
	伊南川100kmウルトラ遠足	伊南地域	伊南総合支所前スタート・ゴール	南会津町観光物産協会伊南観光センター ☎0241-64-5711
10月21日(土)～22日(日)	檜枝岐新そば祭り	檜枝岐村	中土合公園	懐心のえまたツーリズム ☎0241-72-8410
	奥会津ごっつおまつり	金山町	金山町中川町民体育館周辺	金山町役場復興観光課 ☎0241-54-5327
10月21日(土)～11月5日(日)	山人新そば祭り	檜枝岐村	檜枝岐村内(旅館・民宿)	尾瀬檜枝岐温泉観光協会 ☎0241-75-2432
10月22日(日)	第19回昭和村秋味まつり	昭和村	道の駅からむし織の里しょうわ	昭和村秋味まつり実行委員会 ☎0241-57-3700
	唐倉山山開き	南郷地域	唐倉山登山口(木伏地区)	南会津町観光物産協会南郷観光センター ☎0241-64-5811
	たのせふるさとまつり	館岩地域	たのせふるさと公園	たのせふるさとづくり会 ☎0241-78-2527
10月29日(日)	第6回かしゃ猫ロードトレッキング大会	三島町	志津倉山(三島町間方)	三島町観光協会 ☎0241-48-5000
	前沢曲家まつり	館岩地域	前沢集落	前沢景観保存会 ☎0241-72-8977
11月上旬	古町の大イチョウライトアップ	伊南地域	旧伊南小学校	南会津町観光物産協会伊南観光センター ☎0241-64-5711
11月11日(土)	第25回只見新そばまつり	只見町	季の郷 湯ら里	季の郷 湯ら里 ☎0241-84-2888
11月12日(日)	第10回会津柳津新そばまつり	柳津町	やないづふれあい館	柳津町商工会 ☎0241-42-2552
11月12日(日)予定	おたに新そばまつり	三島町	大谷活性化センター	おたに新そばまつり実行委員会事務局 ☎090-6781-7706
11月23日(木・祝)	こぶし館新そばまつり	金山町	道の駅奥会津かねやま	道の駅奥会津かねやま ☎0241-55-3334



発行：只見川電源流域振興協議会（柳津町・三島町・金山町・昭和村・只見町・南会津町（南郷、伊南、館岩地域）・檜枝岐村）  
発行日：9月15日発行（年6回発行）事務局：〒969-7511 福島県大沼郡三島町町民センター（奥会津振興センター内）TEL.0241-48-5525  
http://www.okuaiizu.net ✉ webmaster@okuaiizu.net 編集：奥会津書房 福島県大沼郡三島町宮下 TEL.0241-52-3580

★只見川電源流域振興協議会は、福島県只見川流域の7町村の活性化と振興を図るために活動している団体です。

この冊子は電源立地地域対策交付金の事業により作成されています。